

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2022年 10月 17日

(宛先)
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)

大阪府池田市ダイハツ町1番1号

氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)

ダイハツ工業株式会社

代表取締役社長 奥平 総一郎

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項・第25条第4項
第27条第1項・第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項

の規定に基づき、

事業者行動計画を策定 (変更)
事業者行動報告書を作成

したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	ダイハツ工業株式会社 代表取締役社長 奥平 総一郎
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	大阪府池田市ダイハツ町1番1号

1 事業者の概要

事業所の名称	ダイハツ工業株式会社 滋賀(竜王)工場								
事業所の所在地	滋賀県蒲生郡竜王町大字山之上2910番地								
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	3	1	1	1 ※ 産業分類・細分類名称を記載 自動車製造業(二輪自動車を含む)				
事業の概要	自動車・ユニットの生産								
従業員の数	5443	人	操業時間	16	時間/日				
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者							
	<input type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者							
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者							
主要な設備	ボイラ	100	台	熱源設備	40	台	照明設備	160,000	台
	コンプレッサ	50	台	空気調和設備	1,700	台	その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2022	年度	報告対象年度	年度
	終了年度	2026	年度		

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

別添1参照

2 取組の推進体制

別添2参照

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

平成12年のISO 14001取得以降、様々な省エネの取組を行っている。

- ・生産ラインの統廃合による生産効率向上
- ・工場エア圧の適正化 及び エア漏れ低減によるコンプレッサー電力量の削減
- ・各所ポンプ 及び ファンのインバータ化
- ・高効率照明器具の導入
- ・使用していないエリアの照明設備の消灯
- ・事務所等における空調温度の適正化
- ・冷凍機等のフリークーリング 及び 蒸気レス化

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	ポット改善	重油暖房機の電化	令和4年度～令和8年度	
2	運用改善	ブース内給気室改善	令和4年度～令和5年度	
3	ポット改善	空調の蒸気レス化	令和4年度～令和8年度	
4				
5				

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1		排出量 3000t/年 未満のため未記載		
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
上記(1)の取組等により令和3年度を基準とし以下の数値目標の達成を目指します。 CO ₂ 総量で毎年1%減 目標設定の考え方は以下の通り ・CO ₂ ネットゼロを目指す上で、「量」の削減にこだわり活動を推進する。 ・上記取組みによる削減効果を評価するため電力のCO ₂ 排出係数(電力原単位)は計画基準年度(R3年度)の係数に固定。	

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

		計画開始年度前年度の実績	実績報告				
			()年度				
原油換算エネルギー使用量	kL	70,096					
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	112,469	0	0	0	0	0
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	112,469					
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0	0	0	0	0	0
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移							

報告対象外

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	太陽光パネルの追加設置	令和4年度～令和8年度	
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	地域自治体、農家と連携した「バイオガス化プロジェクト」の推進
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	3,530 kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度				
再エネ電気設備での発電量	kWh	3,110,000					
上記のうち自家消費量	kWh	3,110,000					

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
<p>優れた燃費性能を持つ乗用車を社会に提供することにより、ユーザーの使用段階で削減されるCO₂排出量を貢献量として算定します。</p> <p>滋賀工場では、ダイハツ車に搭載されるエンジン・トランスミッション、およびトヨタ向けエンジン、海外向けエンジン・トランスミッションを製造していますが、これらは最終製品ではなく、貢献量を算定するのが難しいため、滋賀工場で生産した乗用車を貢献量評価の対象とします。</p> <p>滋賀工場で生産した乗用車が、ユーザーの使用段階(10年、10万km)で削減するCO₂の量とします。</p> <ul style="list-style-type: none">①「旧型車の燃費値」をベースラインとする。②2022～2026年の各年に出荷した車の「加重平均燃費値」を算出③乗用車の生涯を10年、走行距離を10万kmとしてベースラインからのCO₂削減量を求める。④削減量に2022～2026年の各年度の生産台数を乗じて、滋賀工場生産車の生涯貢献量とします。	

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
<p>開発にかかる機密内容のため、記載できません。</p>

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価

目標の進捗に対する自己評価

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年				
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂	110,116					
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh	0.351					
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年				
グリーン証書の購 入	t-CO ₂	0					
クレジットの購入	t-CO ₂	0					
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1	通勤	シャトルバスの運行	令和4年度～ 令和8年度	
2	物流	仕入れ先を含め、キャリアカーの省エネ化 輸送トラックのHEV化、フォークリフトの電動化	令和4年度～ 令和8年度	
3				

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年度 前年度の 保有台数	実績報告				
				()年				
	保有車輛の数	台						
	上記のうち 次世代自動車の数	台						
特記事項								

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	3R	リサイクル材を利用した樹脂部品の使用	R4～	
2	環境マネジメ ントシステム (EMS)	ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	R4～	
3	環境マネジメ ントシステム (EMS)	EMSを活用した環境パフォーマンスの改善	R4～	
4	その他	従業員に向けた環境教育の継続	R4～	
5				